千代田区都市計画マスタープラン
『改定素案』
概要版

この『改定素案』は、令和元（2019）年 10 月に千代田区都市計画審議会がまとめた『中間のまとめ』（案）に対する意見聴取や、令和２（2020）年７・８月の地域別意見聴取（オープンハウス）等の結果、分野別のまちづくりの更なる検討の結果などを踏まえて、内容を素案レベルでまとめたものの概要版です。

令和２（2020）年 11 月

序章

千代田区都市計画マスタープランの基本事項

千代田区都市計画マスタープランとは　P2

都市計画マスタープランは、都市計画法第 18 条の２に規定する「都市計画に関する基本的な方針」として、以下の役割を持った指針となります。

・区の都市計画決定の基本的な方針

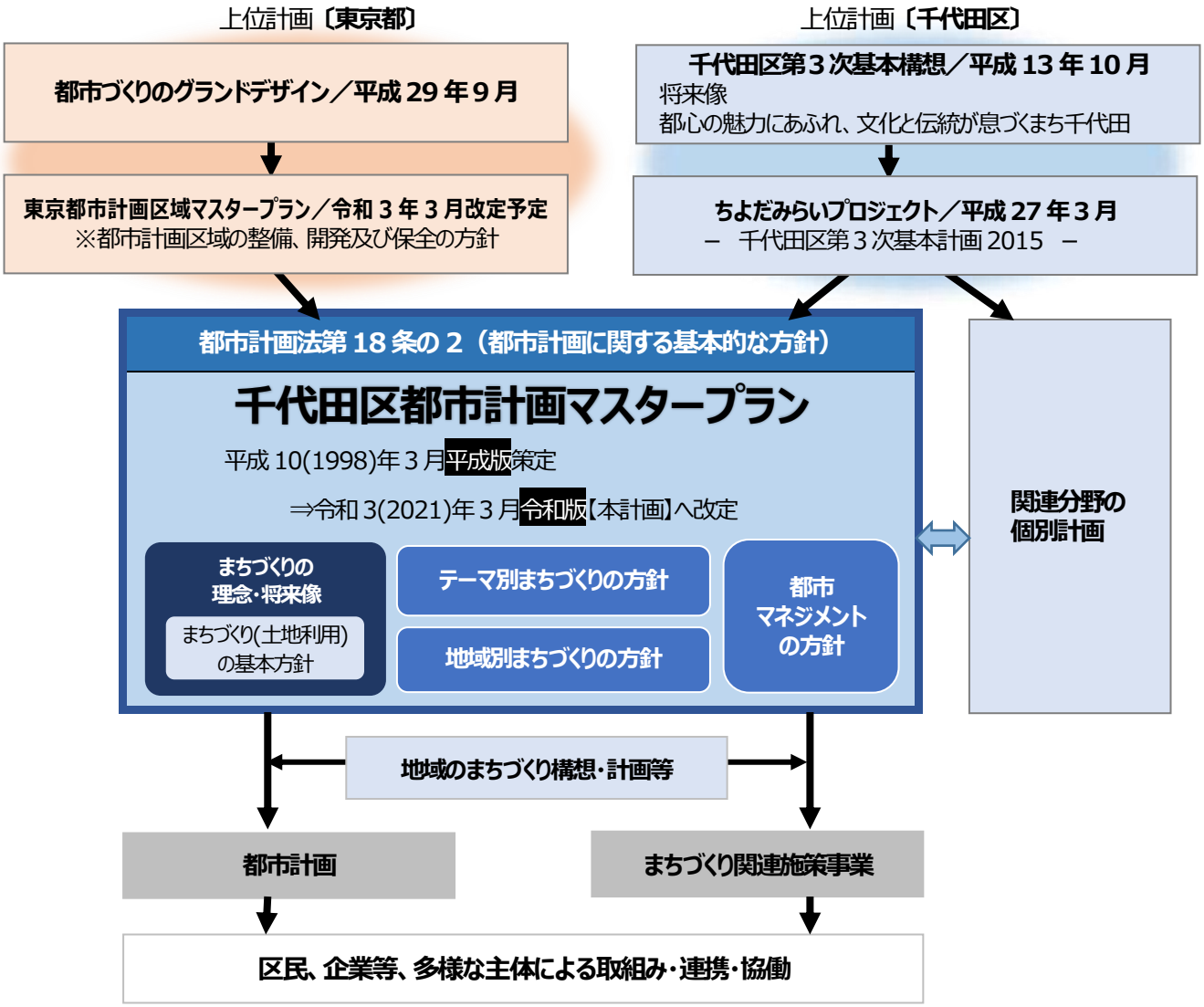
・まちづくり施策を連携して推進するための方針

・国や東京都、他の自治体、関係機関、区民からのまちづくりに対しての協力を得るためのよりどころ

千代田区では都市計画マスタープランを平成 10（1998）年３月に策定しました。策定後 20 年が経過し、まちづくりを取り巻く内外の環境が変化するとともに目標年次を迎えていることから改定する運びとなりました。

位置づけ　P3

千代田区都市計画マスタープランは、「千代田区基本構想」及び「東京都市計画区域マスタープラン」に即して策定します。また、分野別計画や施策との連携・整合を図ります。



対象範囲・目標年次　P4

対象範囲：千代田区全域

目標年次：西暦 2040 年

※概ね５年ごとに都市に関わる基礎的調査を行い、必要に応じて見直しを行います。

計画改定の目的　P4～7

首都東京の中で展望する未来　豊かな都心・都心生活のビジョンとまちづくりの進化の方向性を示す

千代田区では、まちの魅力・価値と未来への可能性を見据え、豊かな都心・都心生活のビジョンを描き、具体的なまちづくりの端緒となる目標・方針を定めることを目的として、都市計画マスタープランを改定します。

改定の背景

■江戸を起源とする千代田区ならではのまちの魅力・価値・文化にこだわりを持ち続けることをまちづくりの理念として共有することが必要です

■まちづくりの課題の変化に的確に対応していくためのビジョンが必要です

■大きな社会変化を展望し、まちづくりの目標を見定めていくことが必要です

■首都東京の未来創造のフロントランナーとして、先導的役割を果たすチャレンジが求められています

千代田区都市計画マスタープランの構成　P8

改定した千代田区都市計画マスタープランは、次のとおり基本事項を定める序章と５つの章で構成しています。

序章 千代田区都市計画 マスタープランの基本事項	千代田区都市計画マスタープランの役割、位置づけ、対象範囲、目標年次、計画改定の目的、構成
第１章 過去・現在から未来に向けて	今後の継承と次世代の新しい価値創造に向けた「計画改定の視点と進化の方向性」
第２章 まちづくりの理念・将来像・基本方針	理念・将来像、まちづくり（土地利用）の基本方針や骨格構造、エリアの特性に応じたまちづくりの方向性、まちづくりを戦略的に先導していく地域
第３章 テーマ別まちづくりの方針	７つのテーマ、まちづくりの方針、テーマの境目なく連携する効果的な取組み
第４章 地域別まちづくりの方針	７地域区分、地域の特性に応じた将来像やまちづくりの方針
第５章 将来像の実現に向けた 都市マネジメントの方針	都心の多様な力を活かしながら未来を展望し、社会潮流の変化や技術革新に的確に対応したまちづくりをタイムリーかつ創造的に変革していくための都市マネジメントの方針

相互に連動

第１章

過去・現在から未来に向けて

まちづくりの系譜 P11～15

千代田区は、江戸城を中心に発展したまちがルーツです。江戸の町割りや緑と水辺の骨格を基盤としながら明治期に帝都建設が進み、江戸の文化と近代都市の高度な機能、風格ある街並みが融合し、個性ある界隈が各所で育まれてきました。震災・戦災からの二度の復興、平成初期の急激な業務地化、定住人口の回復基調への転換を経て、現在では、都市再生が進展しています。

千代田区の魅力・価値 P16～17

魅力・価値１ **首都東京の風格・文化と創造性・活力が調和している**

魅力・価値２ **利便性が高く、豊かな都心環境に恵まれている**

魅力・価値３ **環境、災害対応面等で先駆的なチャレンジが展開されている**

魅力・価値４ **都心千代田ならではの多様性のある界隈が息づいている**

まちづくりの成果 P18～20

・居住機能の確保による定住人口の回復

・鉄道駅及び周辺の整備の進展

・国際的な中枢業務拠点の再生と都心機能の多様化

・開発と連動した防災性の向上と環境・エネルギーなどの都市基盤の充実

・千代田区から発信する社会実験やエリアマネジメントの発展

計画改定の視点と進化の方向性 P21～23

まちや都心生活の「質」（＝QOL：Quality of Life）の向上につなげる

次世代の新しい価値を創造し、首都東京のフロントランナーとして新しい時代を牽引するよう、以下の３つの視点を重視して、まちづくりを進化させていきます。

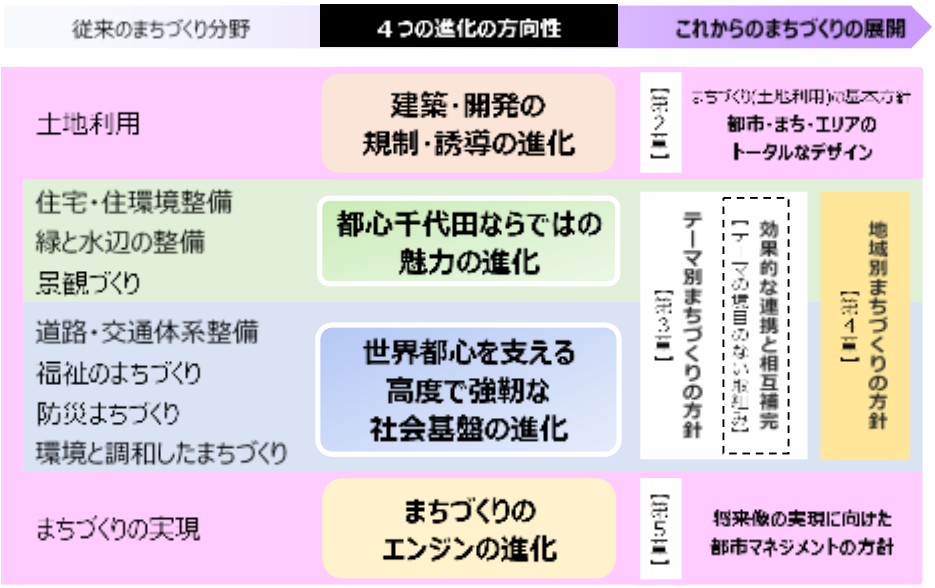
３つの視点

視点１ **“ひと”が主役のまちづくり**

視点２ **豊かな都心生活の継承・創造**

視点３ **加速する社会の変革を支えるまちづくり**

進化



第２章

まちづくりの理念・将来像・基本方針

まちづくりの理念 P26

理　念

歴史に育まれた豊かな都心環境を
次世代に継承し、世界の人に愛されるまち、千代田

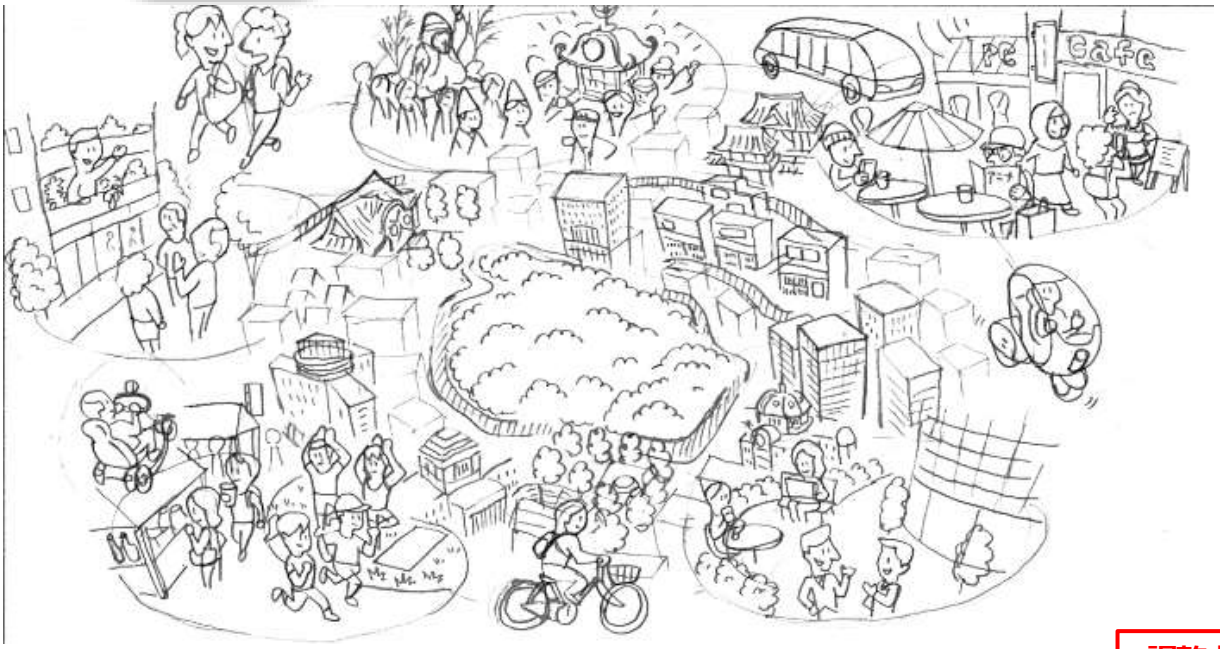
2040 年ごろの千代田区のまちを考えるキーワード

多様性　先進性　強靭・持続可能性

まちづくりの将来像 P27

革新的な技術でまちとひとの有機的なつながりを生み、様々な知恵と力で価値を高め合って、都心生活の質「QOL」を豊かにしていく。そんな未来をイメージして、**“つながる都心”**をまちづくりの将来像としました。

将来像　**つ な が る 都 心**



歴史・文化がつながる

江戸以来のまちの界隈性・風情と
ひとの営みがつながり、
個性ある魅力・価値が息づいていくまち

ひと・まち・コミュニティがつなが

調整中

都心の品格と多様性を活かして
感性豊かなひとと活動が創造的につながり、
新しい価値が生まれるまち

未来・世界へとつながる

時代の先駆けとなった
高度で強靭な都心機能と社会基盤、
豊かな空間を活かし、進化するまち

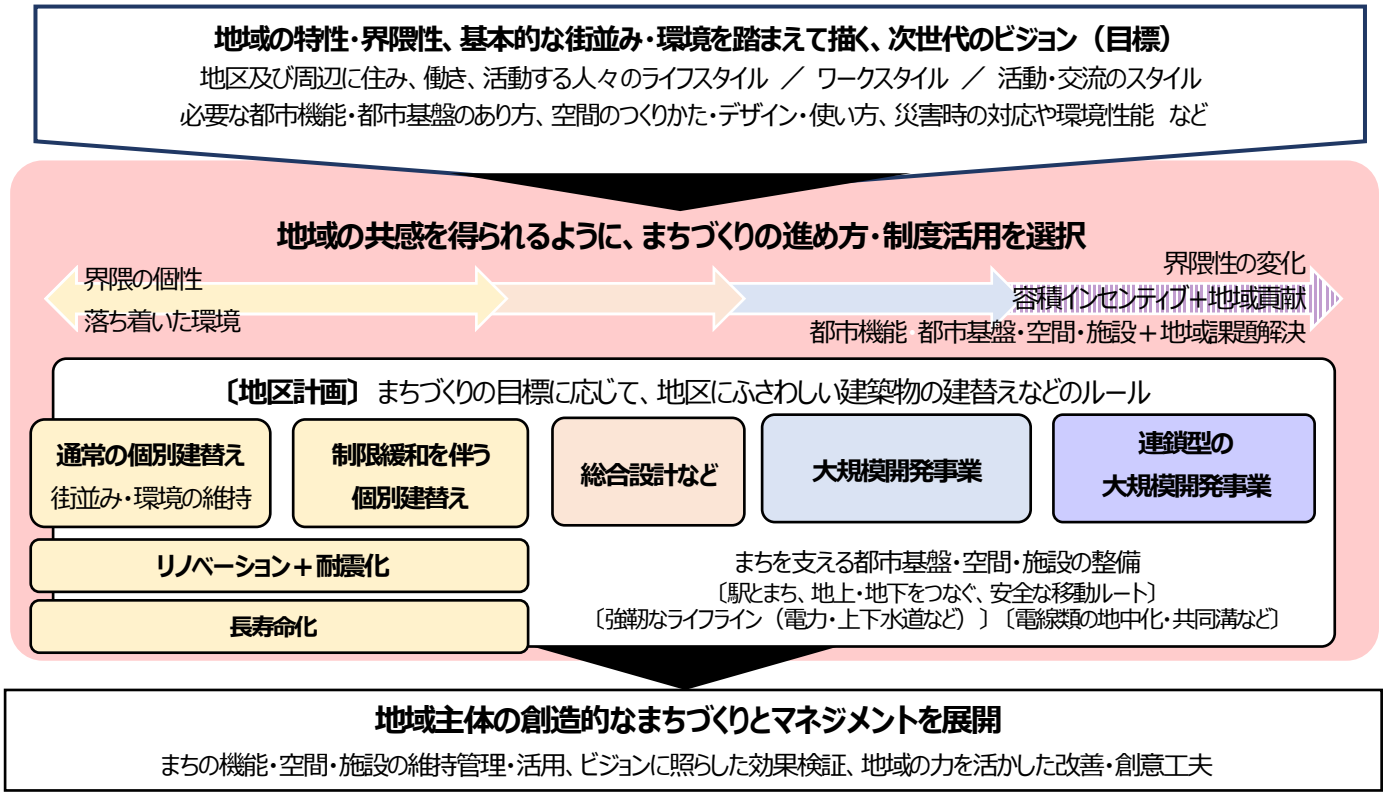
あらゆる情報でつながる

多様な活動と移動、エネルギーの利活用などが
高度な情報分析で最適化され、
都心のポテンシャルを最大限に活かせるまち

“つながる都心”を実現するまちづくり（土地利用）の基本方針 P28～31

地域の共感を得られるような「まちづくりの進め方や制度活用の選択」、地域主体の「まちづくりやマネジメント（空間の維持管理・活用等）」などをトータルにデザインしていきます。

都市・まち・エリアのトータルなデザイン



基本方針１：土地に宿る記憶、遺産、界隈性と文化を、都心生活が楽しくなるまちの味わいと長く住み続けたくなる価値に熟成させていく

基本方針２：都心の多種多様な活動が情報でつながり、最適化と相乗効果で、都心生活を豊かにしていく

基本方針３：都心の多様性を活かしたまち・コミュニティの進化を誘発する

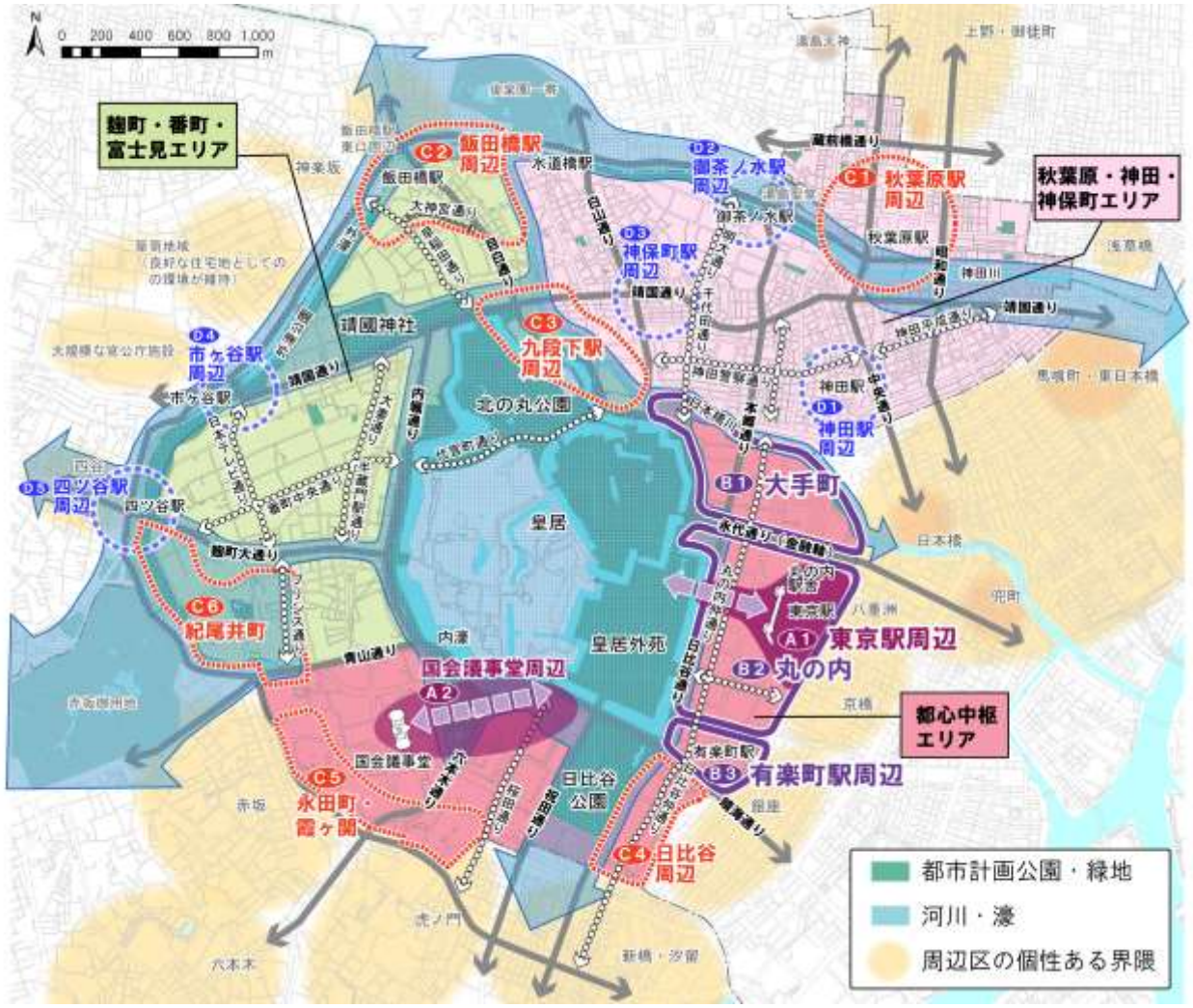
都心の創造力を引き出すマネジメント P32

都心の多様な資源・施設・空間と活動をマネジメント（活用×価値の共創）

各分野の技術革新の進展や働き方の変革による都心の居住やビジネス空間の変化の中で、日常の暮らしや、様々な交流、ビジネス、創造的な活動など、ひとの流動や滞留の動向にあわせて、都心の様々な資源や空間、社会基盤をより効率的・効果的に再編・活用していけるよう、都市マネジメントの取組みを進めていきます。

首都東京における千代田の骨格構造

P33～39



※この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 の地形図を利用して作成したものである。（承認番号）30 都市基交著第 44 号

都市骨格軸	**：環境創造軸** 内濠、外濠を基本として、都心の快適な環境を形成する骨格軸	**：都市機能連携軸** 拠点間の機能連携を高め、広域的に連続的な往並みを形成する骨格軸	**：エリア回遊軸** 日常の移動や地域を越えた回遊を楽しむ環境を充実させる骨格軸

拠点	**：都心千代田の象徴的拠点** 首都東京の風格・品格を象徴する景観を中心に、世界の人々からも親しまれる拠点	**：国際ビジネス・文化交流拠点** 多くのひとが滞在・交流する世界に開かれた拠点	**：高度機能創造・連携拠点** ビジネス・サービス・文化交流・行政などの拠点機能を有し、居心地のよい空間をつなげる拠点	**：まちの魅力再生・創造拠点** 都心生活を支え、豊かにする機能を充実させ、まちの個性や味わいを感じられる拠点

基本エリア	**：麹町・番町・富士見エリア** 外濠・内濠に囲まれ、落ち着き・文化を感じられる住環境と安心して住み続け、働き、活動する都心生活の豊かさや利便性が調和するエリア	**：秋葉原・神田・神保町エリア** 江戸・下町の文化や個性ある界隈の味わい、ひとと生業のつながりある複合市街地と秋葉原駅周辺の拠点が魅力を高めあうエリア	**：都心中枢エリア** 首都東京を牽引し、進化し続ける強靭な都心エリア

戦略的先導地域

P40

まちづくりの機運や連携の可能性が高まっているエリアを、次世代の都心生活を豊かにする魅力・価値を創造するまちづくりを牽引していく戦略的先導地域として定めました。

靖国通り沿いの地域 ／ 万世橋周辺の地域 ／ 飯田橋駅に近接する地域 ／
番町一帯の地域 ／ 神田駅周辺～神田錦町一帯の地域

第３章

テーマ別まちづくりの方針

第２章で示したまちづくりの理念・将来像・基本方針などを実現するために、テーマに基づいた具体的なまちづくりを進めていく必要があります。そのために７つのテーマを設定し、それぞれの方針を定めました。更に他の複数のテーマと効果的な連携や相互補完を意識し、分野の境目のなく取組みを進めていきます。

テーマ１　豊かな都心生活と住環境を守り、育てるまちづくり

P45 ~ 51

未来へのまなざし　**次世代の魅力ある「都心生活」**

住機能を立体的に誘導するための施策・事業を進め、多くの住宅を供給することで定住人口の回復につながりました。今後は、高質な居住環境の充実や都心生活の魅力を豊かにするコミュニティの力を醸成していくことが必要です。

方針１　多様なライフスタイル・ライフステージに応じて住み続けられる機能の充実
方針２　都心生活を豊かにする柔軟な建物利用
方針３　持続的・創造的なコミュニティを醸成する場づくり

取組例：　まちの課題を見つけ、ともに力をあわせて解決する仲間づくりや活動（住民）、都心の魅力を高める建築物利用やリノベーションの推進（企業）、コミュニティの多様な交流・創造的活動の支援（行政）

テーマ２　緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり

P53 ~ 62

未来へのまなざし　**居心地のよい空間の多様性**

官民連携で様々な空地が整備され、大手町川端緑道などの緑豊かな水辺の歩行者ネットワークが拡大しました。今後は、歴史的価値のある緑や水辺と連続する空間の創出や、多様なひとがそれぞれのスタイルで心地よく過ごせる場所となるような創意あふれる維持管理と活用が必要です。

方針１　江戸城の遺構を骨格とした緑と水辺の継承と充実
方針２　都心生活を豊かにする空間デザイン
方針３　官民連携による創造的・多面的な空間活用と維持管理

取組例：　植栽活動や清掃活動など、アダプト活動への参加（住民）、緑の量や居心地のよさ、地域での使い勝手を考慮した空間の創出（企業）、協調的な空間デザインのための基準や指針・ガイドライン、ルールの策定（行政）

テーマ３　都心の風格と景観、界隈の魅力を継承・創出するまちづくり　P63～72

未来へのまなざし　**都心の風格とまちの文脈がつなぐ界隈**

江戸城の遺構を骨格とする眺望や、首都東京の風格を継承する眺望・景観づくりが進んでいます。今後は、歴史的遺構や個性ある界隈の味わい、まちの文脈、物語を感じる魅力などの継承とともに、都心の文化的な活動風景を楽しめるようにしていくことが必要です。

方針１　都心の風格の継承・創造
方針２　地域それぞれの界隈性を重視した景観と魅力の継承・再生・創造
方針３　界隈の魅力を高める効果的なまちづくり手法の活用

取組例：　まちの歴史や文化や魅力ある眺望・景観を紹介する情報の蓄積、発信（住民）、建築・開発における眺望点の整備（企業）、景観法等に基づく建築・開発の協議・指導（行政）

テーマ４　道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり　P73～84

未来へのまなざし　**駅・まち・みち一体の次世代交通**

駅・駅舎の改修や周辺整備のほか、コミュニティサイクルや地域福祉交通「風ぐるま」によって交通利便性やまちの回遊性が高まっています。今後は、都心の活動の多様性、技術革新の進展等に伴う変化やニーズに対応し、安全で快適に移動できる環境を形成することが必要です。

方針１　都心の骨格を形成し、アクセス性を高める広域的な道路・交通体系の充実
方針２　お出かけや外出が楽しくなるみちづくり
方針３　多様な交通モードを切れ目なく活かせる移動ネットワークの確立
方針４　次世代交通の進化のための道路空間と交通・物流の最適化・マネジメント

取組例：　道路空間を活用したオープンカフェの利用やイベントへの参加（住民）、多様な交通モードの実装化（社会実験等）への挑戦（企業）、道路空間の再編や移動・交通の最適化の支援（行政）

テーマ５　多様性を活かすユニバーサルなまちづくり　P85～91

未来へのまなざし　**障壁のない多様な活動と交流**

定住人口の回復とともに、高齢化やファミリー層の増加が進んでいます。多様なひとが暮らしやすいまちづくりとともに、様々なスタイルで都心生活を楽しみ、自分らしく、フレキシブルに時間を過ごし、創造的活動や交流が進む環境を充実させていくことが必要です。

方針１　人生 100 年時代を見据えて都心生活を支える機能・施設の充実
方針２　気軽に外出し、いきいきと活動できるまちのデザイン
方針３　都心に集まるひとの多様性を活かして、交流と活動が創造的に広がる環境の充実

取組例：　心のバリアをなくし、様々なひとを相互に尊重した交流（住民）、多様なひとの外出や交流、活動の場となる空間・機会の充実（企業）、誰もが利用しやすい道路・公園や学校等の公共施設の整備（行政）

テーマ６　災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靭なまちづくり　P93～102

未来へのまなざし　**災害対応力（防災力・復元力・継続性）**

ハード・ソフト両面で災害対応力が高まっている一方、建物倒壊危険度が比較的高いエリアや更新期を迎えた建物が見られます。今後は、大規模災害の発生を想定し、都心の高度な都市基盤施設の強靭化や建物の耐震化、水害に備えた浸水防止対策とともに、企業、大学などの集積を活かした共助の力を育て、まちづくりと連携した事前の備えを進めていくことが必要です。

方針１　復興事前準備の確立
方針２　災害時の円滑な避難と都心生活の継続性の確保
方針３　まちの減災対策の推進
方針４　都市基盤・都心中枢機能の自立性・継続性の確保

取組例：　日頃の防災訓練への参加（住民）、災害時に帰宅困難者を受け入れる体制と備蓄などの備え（企業）、災害発生から復旧・復興を迅速に行うための事前準備・訓練（行政）

テーマ７　高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり　P103 ~ 111

未来へのまなざし　**都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用**

建築・開発などにおける環境配慮、脱炭素社会に向けた取組みが浸透してきており、地域冷暖房システムの導入なども進んでいます。今後は、皇居を中心とした緑や水辺の環境を活かしながら、世界水準の都心にふさわしい先導的な取組みを展開していくことが求められています。

方針１　都心の快適な環境の維持・進化
方針２　経済活動と環境配慮が両立した脱炭素社会を実現するまちづくりの推進
方針３　地域エネルギーデザインの展開

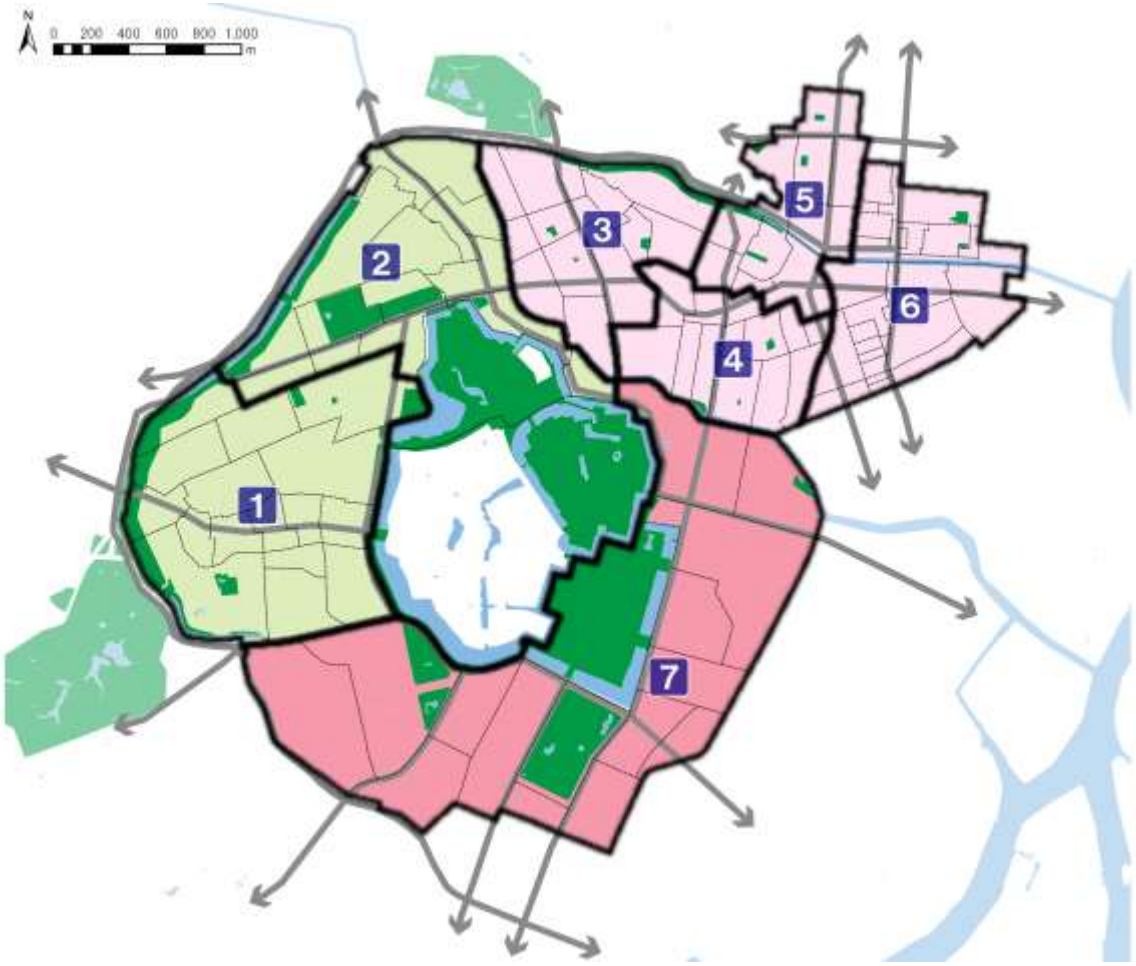
取組例：　太陽光発電や高断熱など省エネ・創エネ等の設備の導入（住民）、エリアの最適なエネルギー利用や協調的な環境配慮、ヒートアイランド現象緩和などに向けたマネジメント活動（企業）、建築・開発における効果的な環境配慮・脱炭素化や地域貢献を誘導する制度の運用・改善（行政）

第４章

地域別まちづくりの方針

第２章で示した将来像を実現するために、千代田区を７地域に区分し、各地域の特徴や課題を捉えながら、第３章のテーマ別まちづくりの方針を踏まえ地域別の将来像・方針を示します。

麹町・番町・富士見エリア	1 麹町・番町地域
	2 飯田橋・富士見地域
秋葉原・神田・神保町エリア	3 神保町地域
	4 神田公園地域
	5 万世橋地域
	6 和泉橋地域
都心中枢エリア	7 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域



※この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の１の地形図を利用して作成したものである。（承認番号）30都市基交著第44号

麹町・番町地域

P117～128

将来像　**落ち着いた住環境と業務空間が共存・調和し、誰もが住み続けられるまち**

江戸時代の武家地から基本的な町割りを引き継ぎ、教育施設・大使館などがまとまって立地するなど、『**利便性が高く、文化的な雰囲気の残る落ち着いた住居系複合市街地**』です。区内で最も多くのひとが住む中、子どもと高齢者の増加に対応する生活支援機能が必要となっています。また、都心の中でも早い時期に立地したマンションなどの高経年化が進んでおり、適正な維持管理が難しくなることが懸念されています。

■継承と進化の方向性

○落ち着きある住宅地の継承と多世代が住み続けられる環境の充実
○大きな緑と水辺がつくる快適な環境をまちに広げる空間の充実
○江戸の武家地・大名屋敷、町地を由来とするまちの特徴と価値を活かしたまちづくりの展開
○駅とまちをつなぎ、歩きやすいみちを広げる歩行環境の充実
○多様なひとがふれあい、つながる交流の充実
○災害や高齢化に備えた建物の適正な維持管理と更新
○機能更新に伴う環境性能の高い建築物や設備などの誘導

飯田橋・富士見地域

P129～140

将来像　**緑と水辺、学びの場による豊かな環境と商店の活気でつくる、魅力ある生活空間を育むまち**

靖國神社や外濠など豊かな環境が感じられ、教育施設や病院などが多く立地しており、『**江戸城の空間構成を伝える緑と水辺に囲まれた豊かな市街地環境を形成**』している地域です。

子どもと高齢者が特に増えており、それに対応した生活支援機能が必要となっています。駅周辺においては、交通結節点としての高い利便性を背景に、整備の機運が高まりつつあります。また、日本橋川沿いでは、集中豪雨（内水）等による水害リスクの軽減対策が必要となっています。

■継承と進化の方向性

○豊かな住環境などと調和した、多様な都市生活を支える機能の充実
○皇居から外濠に続く緑・水辺とまちのつながりを強め、憩える空間、遊べる空間の充実
○豊かな自然環境や教育施設の集積による落ち着き、まちに息づく歴史を感じる街並みの形成
○外濠、日本橋川、早稲田通り、大神宮通りを軸とした、歩きやすい回遊のネットワークの充実
○多様なひとがふれあい、まちの様々な活動に楽しみながら参加できる環境の充実
○九段下駅周辺、飯田橋駅周辺の防災機能の充実と日本橋川沿いの浸水対策
○豊かな環境を活かし、快適で自立性の高い拠点の育成

神保町地域

P141～152

将来像　**熟成された界隈の文化にひかれた多くのひとが創造的活動を広げるまち**

神田川・日本橋川とのつながり、大学の立地、印刷・出版業と古書店の集積などによる『**個性の強い界隈の文化が熟成されたまち**』で、路地裏などでは、多くのひとに愛される飲食店や喫茶店が点在するなど、独特の雰囲気が息づいています。

老朽化が進む中小の建物が比較的多いため、まちに愛着を持って住み、働き、訪れるひとが活動しやすいように、界隈性を活かしながら機能更新などを進めていく必要があります。

■継承と進化の方向性

○若者層の居住回復と高齢者やファミリーの生活利便性向上
○まちとひとをつなげる空間活用と公共空間と一体となった緑化
○古書店街や周辺の個性ある飲食店・喫茶店が点在する界隈の継承と機能更新
○靖国通りと白山通りを軸に、神田の広い範囲で回遊性を高めるための交通結節機能の充実
○ひとの多様性や大学の集積などを活かしたクリエイティブな活動の連携の充実
○日本橋川沿いの機能更新にあわせた浸水被害への対策
○街区単位の機能更新や中小老朽ビルの建替えを契機にした環境・エネルギー対策の推進

神田公園地域

P153～164

将来像　**由緒ある下町のＤＮＡから新しい魅力を醸成し、未来に伝えるまち**

神田駅周辺は江戸期からの町地で、出世不動尊や佐竹稲荷神社など、歴史を感じられる空間が多数存在する『**まちの文脈のつながりが感じられる下町**』です。大手町などに近接する利便性などから集合住宅の建替えなどが進みました。

その結果、賑わいの連続性など、神田らしさが薄れてきており、神田のまちの文脈を活かしたまちづくりが必要となっています。

■継承と進化の方向性

○生活利便性の向上とコミュニティの活性化
○下町の高密な市街地における居心地のよい高質な空間と緑の創出
○神田らしさと新たな魅力が融合するまちのリノベーションと機能更新
○大手町～神田一帯の歩いて楽しいネットワークの形成
○神田に集まる多様なひとが交流し、クリエイティブな活動の連携が進む土壌づくり
○小規模な敷地の建物更新とエリアの防災を支える拠点整備
○機能更新にあわせた環境・エネルギー対策の推進

万世橋地域

P165 ~ 176

将来像　**界隈の歴史性と先端性、アートが融合し、文化を創造・発信し続けるまち**

神田明神や古くから続く老舗など伝統的な下町の風情と秋葉原駅周辺の電気街・サブカルチャーなどが融合して『**下町の風情と新たな文化・情報の発信地**』となっており、区内で最も多くの外国人観光客が訪れています。

そのため、神田明神や万世橋、神田川など、界隈の歴史性や水辺空間を十分に活かして、住み、訪れるひとが快適に、楽しく過ごせる環境をつくりながら、新たな文化が育つようにまちづくりを進める必要があります。

■継承と進化の方向性

○秋葉原駅周辺の先端性と文化を活かした、創造的に働き活動できる環境づくり
○神田川の水辺を軸にしたまちのアメニティの向上
○下町の風情を感じ、ものづくりやアートなどの創造的活動を育てるリノベーションと機能更新
○秋葉原駅周辺を起点とした広域的な連携軸とまちを楽しむ回遊のネットワークの充実
○世界の人々を迎えるやさしい環境づくり
○大規模災害時の滞在者の安全とまちの機能や生活の継続性を維持する拠点整備
○世界に注目される秋葉原駅周辺の先導的かつ快適な環境の形成

和泉橋地域

P177 ~ 188

将来像　**ひと、生業のつながりを育み、下町の魅力とコミュニティを醸成するまち**

問屋街としての昔ながらの生業やひとのつながりが生きる『**下町のよさと都心の魅力が感じられるまち**』です。大手町・日本橋エリアに近接する利便性などから、区内で最も人口増加率が高く、急速に定住人口回復が進んでいます。

一方で、問屋街としての界隈性やコミュニティのつながりの希薄化が進んでおり、まちの歴史を活かした新たな文化やコミュニティ、産業を育む環境の醸成が必要となっています。

■継承と進化の方向性

○周辺の拠点や個性ある界隈に近接した下町の新しい居住スタイルの創造
○神田川・靖国通りを軸とした居心地のよい空間の充実
○まちの歴史とともに、ものづくりやアートなどの新しい魅力を感じる界隈の形成
○東西・南北の骨格軸を活かし、神田駅周辺のまちをつなぐ回遊のネットワークの形成
○子育てしやすいまちの再生と多様性のある人とひとがつながる場の充実
○小規模な敷地の建物更新とエリアの防災を支える拠点整備
○機能更新にあわせた環境・エネルギー対策の推進

大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

P189 ~ 202

将来像　**風格ある環境共生空間で、世界に開かれた都市活動が育まれる強靭なまち**

皇居周辺の風格ある街並みを継承し、世界につながるビジネス・交流など、際立った都市機能が集積する『**首都東京を牽引し、進化し続ける強靭な都心**』です。かつてオフィス中心だったまちは、近年、食やショッピング、文化交流など、複合的な魅力が充実し、滞在するひとも多様化しています。

大規模災害を想定した都心機能の継続性・強靭性を基盤として、多様なひとの力でまちの魅力や価値を高める活動や社会実験などを先駆的に展開し、発信し続けることが期待されています。

■継承と進化の方向性

○都心で働き、活動することの価値を一層高めるまちづくり
○都心生活の質（ＱＯＬ）を高める多様な空間の活用
○美観地区の特性の継承と新たな界隈の魅力の創造
○多様なひとが自在に移動できるシステムの試行と実装
○滞在・活動するひとが持つ多様な力を活かせるまちと"場"のデザイン
○大規模災害時における滞在者の安全と都心機能の継続性を確保する拠点整備
○脱炭素社会を目指して先導的役割を果たす機能更新

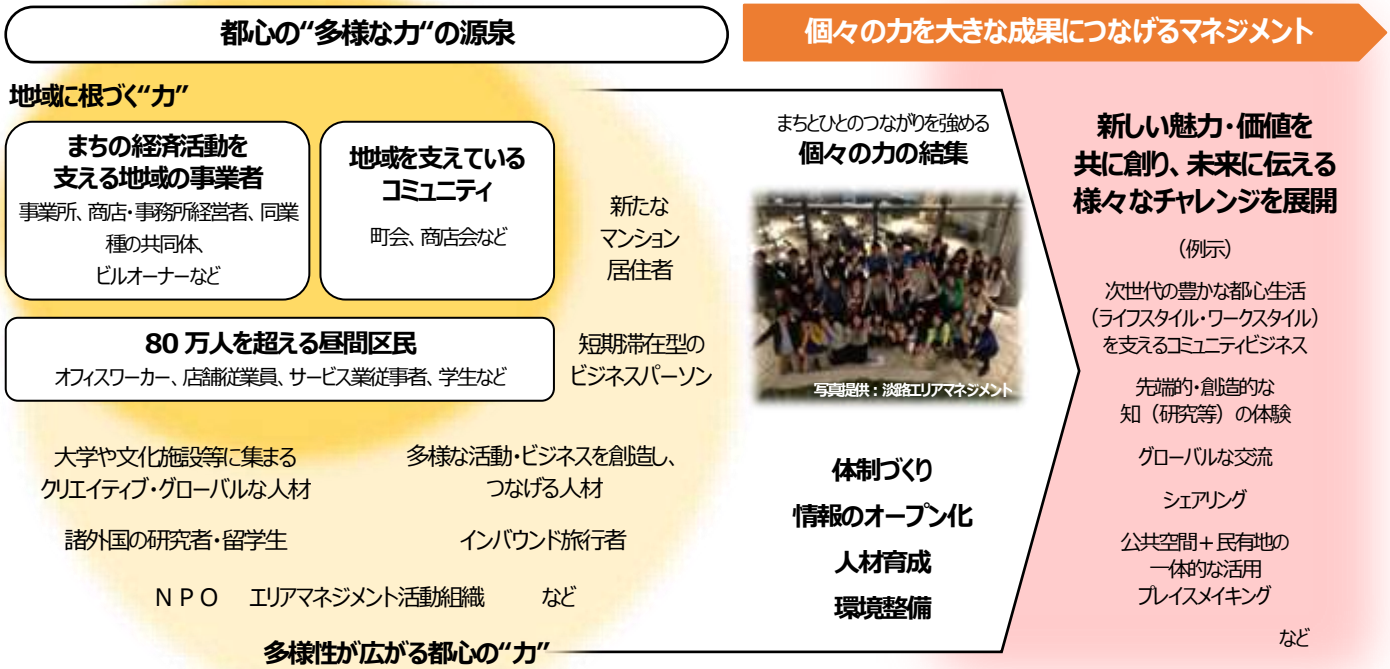
第５章

将来像の実現に向けた都市マネジメントの方針

都心の力を創造的に活かす協働のまちづくり

P204

千代田区で生活・滞在し、活動するたくさんの、そして多様なひと、事業者、組織・団体などがこのマスタープランで描いた将来像を共有し、それぞれの力を活かして創意工夫を重ね、つながりを強めて、具体的なまちづくりを展開して実現していくことが重要です。



地域まちづくりの推進

P205 ~ 206

区が決定する都市計画や区内のまちづくり施策は、このマスタープランに基づいて、住民や町会・商店会などが主体となった協議会等と連携し、地域合意に基づき進めていくことが基本となります。

加えて、新たなまちづくりの主体として期待される多くのクリエイティブなひと、グループが、地域の個性やまちの文脈を尊重しながら、創造的活動を広げていけるよう、マネジメントの手法の確立に向けた検討やプラットフォームづくりを進めていきます。

まちづくりの継続的な改善・進化

P207 ~ 208

都心の膨大なデータと「千代田都市づくり白書」としてまとめる都市計画基礎調査と連動した情報の整理・分析により、都市計画マスタープランに基づくまちづくりの成果とそれらを踏まえた課題を定期的に把握していきます。これらを各種施策・事業の実施と連動させて、まちや社会の変化に的確に対応して、目標や方針などを柔軟に見直していきます。

まちづくりの具体化と更なる進化に向けて

P209 ~ 211

都市計画マスタープランで描く将来像を実現・具現化するため、多様な主体と連携・協働してまちづくりを進めます。一方で、都市を取り巻く社会・経済環境の変化や都市で生活し活動する人々のニーズに柔軟かつ的確に対応するため、常にまちづくりを進化させていきます。